

## 観光地域づくり法人形成・確立計画

### 1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを○ で囲むこと	広域連携DMO・ <span style="border: 1px solid black;">地域連携DMO</span> ・地域DMO	
観光地域づくり法人 の名称	公益社団法人 香川県観光協会	
マーケティング・マネ ジメント対象とする 区域	香川県全域：8市9町 高松市、丸亀市、坂出市、善通寺市、観音寺市、さぬき市、東かがわ市、三 豊市、土庄町、小豆島町、三木町、直島町、宇多津町、綾川町、琴平町、多 度津町、まんのう町	
所在地	香川県高松市	
設立時期	昭和45年9月（平成25年4月1日付けで公益社団法人に移行）	
職員数	9人（専従役員、専従職員）	
代表者（トップ人 材：法人の取組につ いて対外的に最終的 に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 三矢 昌洋 （出身組織名） 香川県ホテル旅館生活 衛生同業組合	香川県ホテル旅館生活衛生同業組合の理事長として、長年にわたり、本県の観光振興の牽引役として尽力してきた。平成26年5月に（公社）香川県観光協会の会長に就任し、「香川せとうちアート観光圏」や日本版DMOの整備、全県的なおもてなし運動の展開などに積極的に取り組んでいる。
データ収集・分析等 の専門人材（CM O：チーフ・マーケ ティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 国分 伸二「専従」	令和2年6月に（公社）香川県観光協会の専務理事に就任。香川県職員として文化振興分野、特に瀬戸内国際芸術祭2016では実行委員会事務局長として中心的役割を果たすなどの実績があり、「香川せとうちアート観光圏」ではその人的ネットワークや専門知識を生かし、中核的な役割を担っている。
財務責任者 （CFO：チーフ・ フィナンシャル・オ フィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 土居 義昌「専従」 （出身組織名） 香川県（派遣）	平成31年4月に（公社）香川県観光協会の事務局長に就任。香川県職員としての勤務経験を生かし、当協会の運営収支や財源確保等に関する中心的な役割を担っている。
プロモーションの責 任者（専門人材）	（氏名） 土居 義昌「専従」 （出身組織名） 香川県（派遣）	平成31年4月に（公社）香川県観光協会の事務局長に就任。香川県職員として、観光分野で勤務した経験を生かし、県観光振興課等と連携を図りながら、当協会が実施するプロモーションの中心的な役割を担っている。
旅行商品の造成・販売 の責任者（専門人 材）	（氏名） 空山 昌弘「専従」 （出身組織名） （株）JTB（出向）	令和3年2月から（公社）香川県観光協会でも勤務。旅行業界最大手であるJTBでの勤務経験を生かし、本県で滞在、周遊する着地型旅行商品の造成・販売の中心的な役割を担っている。
情報発信の責任者 （専門人材）	（氏名） 青木 智佳「専従」	（株）高松リビング新聞社に約25年間勤務し、地域情報誌の企画・執筆・編集等に従事。平成26年7

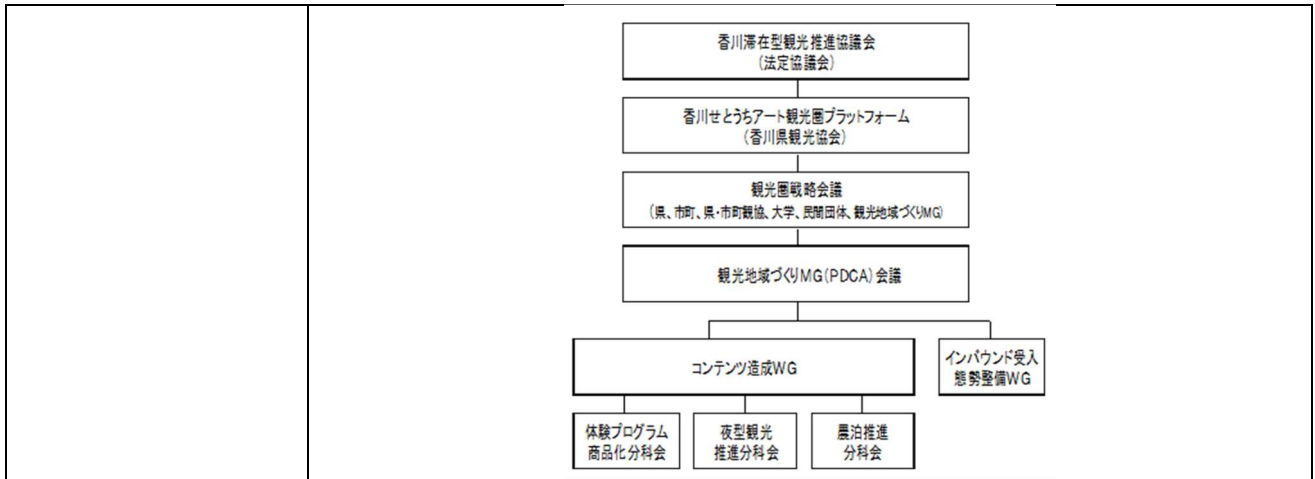
(別添) 様式 1

		月から(公社)香川県観光協会に勤務。観光庁認定の観光地域づくりマネージャー。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	マーケティング : 香川県交流推進部交流推進課 国内プロモーション : " " 観光振興課 海外プロモーション : " " 国際観光推進室 地域公共交通 : " " 交通政策課 県産食材・県産品 : " " 県産品振興課・農政水産部各課 農泊海外発信事業 : " 農政水産部農政課 社会資本整備 : " 土木部各課 観光振興全般 : 各市町観光担当課 など	
連携する事業者名及び役割	各市町観光協会(地域内の連絡調整、滞在プログラム) わがかがわ観光推進協議会(まちづくり型観光、おもてなし) てくてくさぬき推進協議会(地域内の連絡調整、まち歩き) 香川県ホテル旅館生活衛生同業組合(地域内の連絡調整) さぬき瀬戸塾(地域内の連絡調整) (一社)香川県婦人団体連絡協議会(地域内の連絡調整) 株式会社百十四銀行(地域内の連絡調整) (一社)全国旅行業協会香川県支部(旅行商品の造成) (一社)日本旅行業協会中国四国支部香川地区委員会(旅行商品の造成) (一社)かがわ県産品振興機構(県産品の開発・支援) 四国旅客鉄道株式会社(交通アクセス) 高松琴平電気鉄道株式会社(交通アクセス) 香川県旅客船協会(交通アクセス) など	
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】①、② (概要) ①役員として、県下の各市町観光協会の長に加え、宿泊事業者や二次交通事業者、旅行業事業者の団体の長が就任している。 ②観光圏整備法に基づく観光圏として認定された「香川せとうちアート観光圏」のプラットフォームとしての役割を担っており、県や市町、市町観光協会、関係団体をメンバーとする観光圏戦略会議やワーキンググループを設置している。	
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	○香川をもっと深く知り、郷土愛を育んでもらうことにより、県外からの観光客におもてなしの心で接してもらうため、香川の観光・歴史・文化・食などの様々な分野に精通した講師による県民向け講座「さぬきアカデミー」を開催している。(平成26年度～) ○県民に自分たちが暮らす地域の歴史や文化、背景についてより理解を深め、誇りを持ってもらうことにより、おもてなし意識の醸成につなげるため、高松や丸亀・多度津、瀬戸内の島々の歴史や文化を紹介した観光ガイドブックを作成・配布した。(平成26～28年度) ○県内を3つの地域に分け、それぞれ住民を巻き込んだワーキンググループを設け、観光地域づくりについて議論等を行った。(平成26～28年度) ○県内各地で活動している観光ガイドの資質向上を図り、プロ意識を有したガイドを育成するための研修会を開催した。(平成28～29年度) ○その他、観光従事者、タクシー従業員、バス従業員及び経営者のおもてなし力の向上を図るため、香川の観光の基礎知識や接客技術を学ぶおもてなし研修を開催している。(毎年度開催)	
法人のこれまでの活動実績	(活動の概要) ○当協会は、観光事業の振興を図り、観光団体との連絡調整を行うとともに、国際観光の振興を促し、地方文化、産業の発展に寄与することを目的として、会費収入や香川県等からの補助金等により、観光客の受入態勢整備事	

(別添) 様式 1

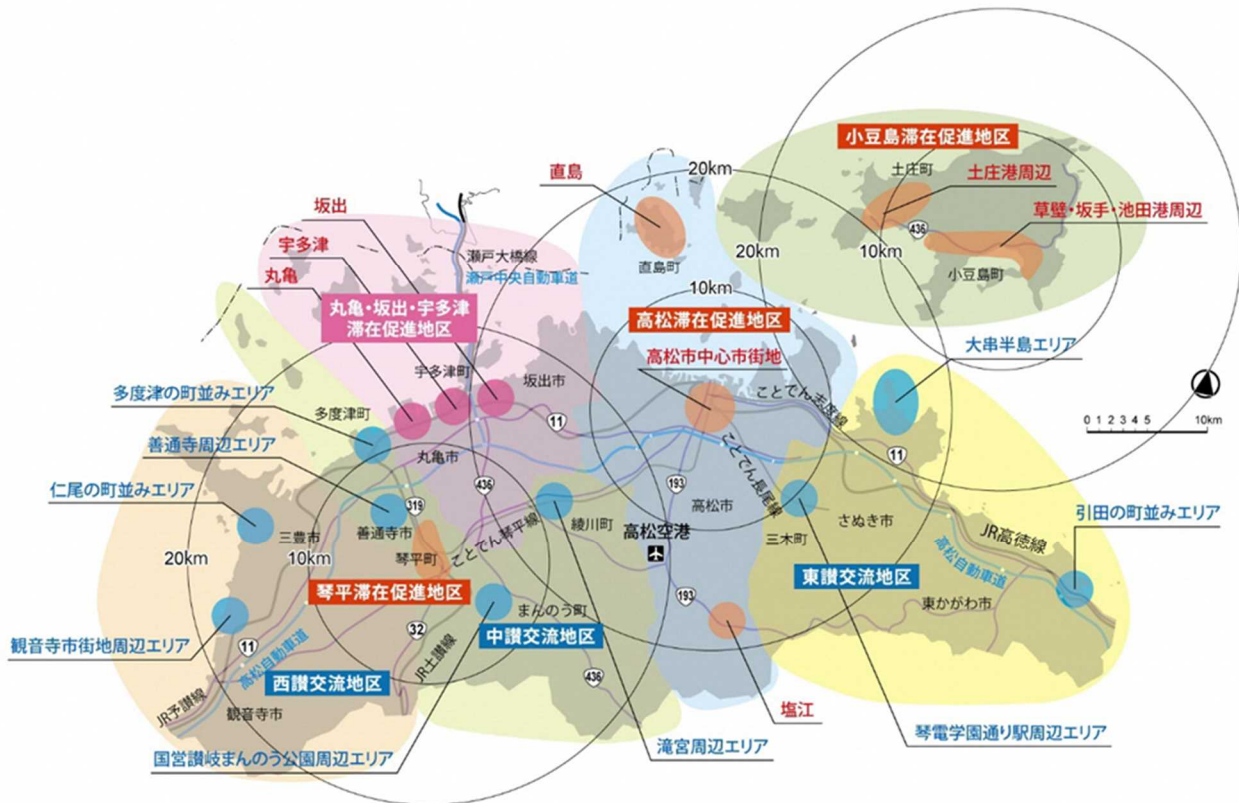
	<p>業、観光情報発信事業、国内外からの観光客誘致事業、観光香川おもてなし推進事業などを実施している。</p> <p>○当協会は、令和2年4月に観光圏整備法に基づく観光圏として再認定された「香川せとうちアート観光圏」のプラットフォームとしての役割を担っており、平成29年11月には、観光庁が日本版DMO法人（地域連携DMO）の第一陣として登録した。</p> <p>（定量的な評価）</p> <p>○県外観光客数</p> <p>H28年：約9,368千人（2年連続で増加し、4年連続で9,000千人超）  H29年：約9,464千人（3年連続で増加し、5年連続で9,000千人超）  H30年：約9,416千人（6年連続で9,000千人超）  R元年：約9,687千人（7年連続で9,000千人超）  R2年：約6,184千人（新型コロナウイルスの影響により、前年比36.2%減）</p> <p>※出典：香川県観光客動態調査報告</p> <p>○外国人延べ宿泊者数</p> <p>H28年：約358千人（対前年比170.3%増）  H29年：約482千人（対前年比134.6%増）  H30年：約546千人（対前年比113.2%増）  R元年：約691千人（対前年比126.5%増）  R2年：約75千人（新型コロナウイルスの影響により、対前年比90.2%減）</p> <p>※出典：観光庁宿泊旅行統計調査</p>
<p>実施体制</p> <p>※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。</p>	<p>（実施体制の概要）</p> <p>○公益社団法人として、総会及び理事会を定期的開催している。</p> <p>○当協会の役員として、県下の各市町観光協会の長に加え、宿泊事業者や二次交通事業者、旅行業事業者の団体の長が就任している。</p> <p>○当協会の会員として、市町や市町観光協会、各種観光関連団体等が加盟しており、令和2年3月末現在の会員数は263となっている。</p> <p>○当協会は、観光圏整備法に基づく観光圏として認定された「香川せとうちアート観光圏」のプラットフォームとしての役割も担っており、当プラットフォーム内に、県や市町、市町観光協会、宿泊施設、大学、交通機関、NPO法人、文化や食、農業関係団体をメンバーとする観光圏戦略会議を設置し、関係者の合意形成を図っている。</p> <p>※観光圏戦略会議の構成員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地域づくりマネージャー</li> <li>・県内各市町（市町担当課長）</li> <li>・県内各市町観光協会（事務局長等）</li> <li>・宿泊施設（県ホテル旅館生活衛生同業組合、ゲストハウス等）</li> <li>・大学</li> <li>・民間（金融機関、鉄道事業者、NPO法人）</li> <li>・まち歩き団体（てくてくさぬき推進協議会）</li> <li>・文化（県立ミュージアム）</li> <li>・食（さぬきうまいもんプロジェクト実行委員会）</li> <li>・農（かがわグリーンツーリズム推進委員会）</li> <li>・四国運輸局（オブザーバー）</li> <li>・観光圏整備法に基づく法定協議会として、県や市町、市町観光協会、関係団体で構成する「香川滞在型観光推進協議会」を設置している。</li> </ul>

(別添) 様式 1



2. 観光地域づくり法人がマーケティング・マネジメントする区域

○香川県全域：8市9町



	市町名	名称	活用方策
観光資源	高松滞在促進地区	栗林公園、史跡高松城跡 玉藻公園、屋島、北浜alley、仏生山の町並み、塩江温泉郷 など	○栗林公園や屋島、小豆島、琴平といった、本県を代表する老舗観光地を擁し、宿泊施設も集積している高松、小豆島、琴平を拠点として、特色ある県内の各観光地を周遊する滞在プロ
	小豆島滞在促進地区	オリーブ公園、寒霞渓、銚子渓、エンジェルロード、二十四の瞳映画村、迷路のまち、醬の郷、小豆島温泉郷 など	
	琴平滞在促進地区	金刀比羅宮、こんぴら温泉郷 など	

(別添) 様式 1

	丸亀・坂出・宇多津滞在促進地区	丸亀城、うちわの港ミュージアム、ニューレオマワールド、中津万象園、瀬戸大橋記念公園、宇多津古街、四国水族館 など	<p>グラムの企画促進、魅力向上を図る。</p> <p>○滞在プログラムの企画にあたっては、県内全域で盛んに行われている、地域住民が主体となり、地域の歴史、文化、自然、産業、食などを、地元が知り尽くしたガイドが案内するまち歩き「てくてくさぬき」の取組みで蓄積してきた人材やノウハウを活用する。</p>
	東讃交流地区	大串自然公園、津田の松原、大窪寺、平賀源内記念館、日本ドルフィンセンター、讃州井筒屋敷、ランプロファイヤ岩脈、しろとり動物園、とらまる公園 など	
	中讃交流地区	善通寺、滝宮天満宮、綾川町うどん会館、柏原溪谷、多度津の町並み、国営讃岐まんのう公園など	
	西讃交流地区	琴弾公園(銭形砂絵)、荘内半島(紫雲出山)、本山寺、宗吉瓦窯跡史跡公園、仁尾の町並み、父母ヶ浜、高屋神社 など	
文化・アート資源	高松滞在促進地区	イサム・ノグチ庭園美術館、香川県庁東館、Liminal Air -core-、ジョージ ナカシマ記念館、男木島や女木島の現代アート、地中美術館、ベネッセハウス ミュージアム、ANDO MUSEUM、李禹煥美術館、家プロジェクト、NAGARESTUDIO など	<p>○日本一狭い県土に集積しているアートや文化資源と、近年、瀬戸内国際芸術祭の開催を契機として、国内外から高い評価を得ている現代アートを本県の強みと捉え、「香川せとうちアート」ブランドを確立させることにより、アートに深い関心を持ち、SNSや口コミなどによる情報発信力が強い女性層を主なターゲットとするとともに、高松空港に就航している国際定期航空路線を活用して、海外からも観光客を誘致する。</p>
	小豆島滞在促進地区	豊島美術館、豊島横尾館、美井戸神社と ANGER from the bottom など	
	琴平滞在促進地区	金刀比羅宮書院、高橋由一館、鞘橋、高燈籠、旧金毘羅大芝居(金丸座) など	
	丸亀・坂出・宇多津滞在促進地区	猪熊弦一郎現代美術館、東山魁夷せとうち美術館、宇多津古街の家、本島や沙弥島の現代アートなど	
	東讃交流地区	引田城跡、五名ギャラリー、池戸公民館、太古の森 など	
	中讃交流地区	旧善通寺偕行社、善通寺宝物館、高見島の現代アート など	
	西讃交流地区	伊吹島や粟島の現代アート、豊稔池堰堤 など	
自然	○「世界の宝石」と称される瀬戸内海の島と海が織りなす穏やかな風景や、瀬戸内海へ向かって緩やかに広がる讃岐平野に、おむすび型の里山や約 1 万 4 千を超えるため池が点在する独特の景観など、本県が有する自然の魅力を全国に向けて情報発信する。		
イベント	○3 年に一度、島々を舞台に繰り広げられる現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」や、彼方に海を望む地で行われる「かがわ・山なみ芸術祭」をはじめ、毎年、継続して開催している「高松国際ピアノコンクール」や「さぬき映画祭」、「全国年明けうどん大会」、「香川丸亀国際ハーフマラソン」などの全国規模の誘客イベントを活用したプロモーションを展開する。		

【区域設定の考え方】

- 香川県の面積は全国の都道府県の中で最も狭く、全国に占める割合は 0.5%しかない。土地利用度や人口密度は高く、鉄道網(JR・琴電)が県内の大半のエリアを網羅しており、道路整備も進んでいることから、県都高松市を中心として県全域が一日生活圏を形成している。
- 県内の大部分が海岸線から 20kmの範囲内にあり、古来から、人、物、文化、情報が、海・島を介して往来し、歴史的に見ても海と陸が不可分一体として発展してきた土地柄であり、島しょ部と内陸部も含め、県全域がせとうち文化圏としての一体性を有している。
- これまでも、県全域を対象とした 1 泊 2 日、2 泊 3 日のモデルルートを設定し、旅行エージェント等に売り込んできたところであり、実際の観光客の動きとも合致している。
- 香川県では、2 泊 3 日以上滞り型観光を推進するため、平成 22 年度から、県内全域(8 市 9 町)を圏域とする「香川せとうちアート観光圏」の整備に取り組んでおり、平成 27 年 4 月 10 日に

(別添) 様式 1

は、観光圏整備法に基づく観光圏として、改めて国土交通大臣の認定(令和2年4月7日更新認定)を受けている。

○当協会は、この「香川せとうちアート観光圏」のプラットフォームとしての役割を担っており、今後、本区域における日本版DMOとしての役割も担っていくものである。

【観光客の実態等】

○県外観光客数 H28:約 9,368 千人、H29:約 9,464 千人、H30:約 9,416 千人、R元:約 9,687 千人、R2:約 6,184 千人

・どこから ①近畿 37.3% ②四国 3 県 22.3% ③山陽 20.0% ④関東 9.9%

・観光日程 日帰り 74.0% 県内宿泊 26.0%(1.22 泊)

・1人当たり平均消費額 県外宿泊観光客:24,524 円 県外日帰り観光客:6,329 円

○外国人延べ宿泊者数 H28:約 358 千人、H29:約 482 千人、H30:約 546 千人、R元:約 691 千人、R2:約 75 千人

・どこから ①台湾 29% ②中国 27% ③香港 15% ④韓国 11% ※コロナ禍前のR元年度実績

【観光資源:観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

○古より交通・交流が盛んな地域として発展してきた香川県は、昭和9年に日本で初めて国立公園に指定された「瀬戸内海国立公園」の中心に位置し、四国の東北部にある。北は県花・県木のオリーブで知られる小豆島をはじめ、現代アートの聖地として世界的に有名な直島など、大小110余の島々が「世界の宝石」と称される瀬戸内海に浮かび、魅惑の風景を醸し出している。南には讃岐山脈が連なり、北に向かって開けた讃岐平野には、おむすび型の里山や約1万4千を超えるため池が点在し、独特の景観を生み出している。

○国の特別名勝である栗林公園、こんぴらさんの愛称で親しまれる金刀比羅宮を擁する琴平、寒霞渓やオリーブで有名な小豆島、源平合戦の古戦場でも知られる屋島などをはじめ、全国に誇れる魅力的な観光資源が多数ある。

○猪熊弦一郎などの数多くの優れた芸術家を輩出するとともに、創作活動の場としてイサム・ノグチなどの世界的な芸術家を引き付けるなど、現代美術を中心とした優れた文化芸術を受け入れてきた個性豊かな地であり、県庁舎東館や丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、地中美術館などの世界的な建築家が設計した建築が数多く存在し、現代建築の面でも衆目を集めている。

○平成22年から3年ごとに開催されている瀬戸内国際芸術祭は、「海の復権」をテーマに、世界中から参加したアーティストが、島に暮らす人々と交わりながら作品を作り出し、瀬戸内海の美しい自然と、現代アートの聖地として知られる直島をはじめ瀬戸内の島々に広がるアートが、国内外から高い注目を集めている。

○平成27年4月に四国4県と関係57市町村の共同申請で日本遺産として初認定された「四国遍路」は、時代を超えて受け継がれてきた世界に誇る文化遺産である。

○国の認定を受けた「香川せとうちアート観光圏」では、瀬戸内海という地域資源と、県内に集積しているアートや文化遺産を活用した「滞在交流型観光」に取り組んでいる。

○2016年主要国首脳会議(伊勢志摩サミット)に合わせて、「G7情報通信大臣会合」が四国で初めて県都高松市で開催され、観光振興や地域経済への波及など、地域の活性化が図られた。

○毎年、高松国際ピアノコンクール、さぬき映画祭、全国年明けうどん大会、香川丸亀国際ハーフマラソンなどのイベントも開催されており、地域密着型スポーツチームとして、カマタマーレ讃岐(サッカー)、香川オリーブガイナーズ(野球)、高松ファイブアローズ(バスケットボール)、香川アイスフェローズ(アイスホッケー)がある。

○県内の有名うどん店に多くの観光客が訪れるなど、うどんブームは根強く、民間調査会社による地域ブランド力調査において、名産品部門で全国1位となるなど、讃岐うどんは高い認知度を誇っている。また、瀬戸の地魚や骨付き鳥なども、「香川の食」として注目されている。

(別添) 様式 1

【宿泊施設:域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

○「香川せとうちアート観光圏」整備計画に基づく滞在促進地区の状況

地域・地区	施設数	収容人数(約・人)	備考
主たる滞在促進地区			
①高松	160	10,000	
内 高松市中心市街地	(90)	(8,000)	
内 塩江	(10)	(1,000)	
内 直島	(60)	(1,000)	
②小豆島	60	5,400	
③琴平	20	2,800	
滞在促進地区			
①丸亀市・坂出市・宇多津	60	5,000	
内 丸亀	(20)	(2,500)	
内 坂出	(30)	(2,000)	
内 宇多津	(10)	(500)	

【利便性:区域までの交通、域内交通】

○区域までの交通

関東方面から	発地→(手段・所要時間)→経由地→(手段・所要時間)→高松
JRで	東京→(のぞみ約3時間 15分)→岡山→(マリライナー約1時間)→高松
飛行機で	羽田→(約1時間 20分)→高松 成田→(約1時間 30分)→高松
高速バスで	東京→(約10時間)→高松
関西方面から	発地→(手段・所要時間)→経由地→(手段・所要時間)→高松
JRで	大阪→(のぞみ約45分)→岡山→(マリライナー約1時間)→高松
高速バスで	大阪→(約3時間 30分)→高松
フェリーで	神戸→(ジャンボフェリー約4時間)→高松

○域内交通

<電車>

- ・岡山－高松間には、本州と四国との間を唯一、列車で結ぶ瀬戸大橋線が走っている。
- ・JR四国の高德線、予讃線、土讃線の各普通・特急列車が運行され、高松琴平電気鉄道とともに、県都・高松市と県内各地を結んでいる。

<高速道路>

- ・高松自動車道によって徳島県、愛媛県と、高知自動車道によって高知県とつながっている。
- ・瀬戸中央自動車道によって、本州・岡山県につながっている。

<船・フェリー>

- ・高松港をマザーポートとして、瀬戸内海に浮かぶ小豆島や直島等の島々への船の航路があり、その他、生活路線としての離島航路が、数多く運航されている。

【外国人観光客への対応】

○国際定期路線 (運休中)

- ・台北線 :チャイナエアライン 週7便(月・火・水・木・金・土・日)
- ・上海線 :春秋航空 週5便(月・火・木・金・日)
- ・ソウル線:エアソウル 週3便(月・木・土)
- ・香港線 :香港エクスプレス 週5便(月・水・木・金・日)

○事業概要

- ・高松空港と国際定期路線が就航している上海、ソウル、台北、香港及び台北線を利用して同日乗り継ぎが可能なタイなどを主たるターゲットとして、現地でのキャンペーンの実施や旅行展示会への

(別添) 様式 1

出展、旅行エージェントやマスコミの招聘、外国語パンフレットやノベルティグッズの作成・配布等を実施している。

- ・現地旅行エージェントに対し、本県へのツアー造成・販促支援を行っている。

○外国人観光客の状況(出典:観光庁宿泊旅行統計調査)

- ・外国人延宿泊者数 …H28年:約358千人、H29年:約482千人、H30年:約546千人、R元:約691千人、R2:約75千人
- ・国・地域別宿泊者数…①台湾 29% ②中国 27% ③香港 15% ④韓国 11%  
※コロナ禍前のR元実績

○環境整備

- ・本協会が、陸と海の玄関口・サンポート高松のJR高松駅構内に、日本政府観光局のJNTO外国人観光案内所(カテゴリ-3)を設置している。
- ・本協会では、多言語対応(英語、中国語(簡体字、繁体字)、韓国語、タイ語)したWebサイトを利用した一元的な情報発信を行っており、平成29年7月には、県内の観光案内所や宿泊・観光施設、飲食店などを対象に多言語の通訳・翻訳サービスを行う香川県多言語コールセンターを開設した。
- ・平成26年7月から、無料公衆無線LAN「かがわWiFi」のサービス提供を開始し、順次、スポット数の拡大を図っている。
- ・栗林公園東門横の「かがわ物産館・栗林庵」等、免税店が整備されている。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
香川県観光客動態調査	香川県を訪れた観光客入込数及び直接消費額を推計し、今後の観光施策の参考とする。	①県外観光客入込数 ・交通機関(航空機、JR、フェリー)の下り便及び高速道路の利用者数をもとに推計 ②宿泊有無別観光客入込数 ・県内(延べ・実)宿泊客数を観光庁の宿泊旅行統計調査結果をもとに算出 ③県内での観光消費金額 ・県内宿泊客数及び「香川県観光地点パラメータ調査」の結果から算出した一人当たりの平均観光消費金額をもとに算出 ④主要観光地入込客数 ・県内主要観光地(栗林公園、屋島、琴平、小豆島)からの報告
香川県観光実態調査	香川県を訪れた観光客の実態を把握し、現状と課題を分析する。 (調査項目) 性別、年齢、居住地、選択理由、香川の魅力、情報源、満足度、再来訪意向、期待や要望 など	香川独自の「アンケート調査」として実施 (調査方法) 対面聞き取り調査 (調査対象) 16歳以上の男女個人 (調査地点) 県内主要観光地10か所 (調査回数) 3回
香川県観光地点パラメータ調査	香川県を訪れた観光客の実態を把握し、現状と課題を分析する。 (調査項目)	観光庁の「観光入込客統計に関する共通基準」に基づき実施 (調査方法)



(別添) 様式 1

	性別、年齢、居住地、観光日程、宿泊施設数、旅行目的、同伴者、訪問回数、立ち寄り観光地、利用交通機関、消費金額 など	対面聞き取り調査 (調査対象) 16歳以上の男女個人 (調査地点) 県内主要観光地 12か所 (調査回数) 3回
観光圏・顧客満足度調査	全国の認定観光圏が同一の調査を実施し、観光圏の評価指標の一つとして活用する。 (調査項目) 性別、年齢、居住地、来訪回数、同伴者、利用交通機関、滞在時間、情報源、動機、楽しみにしていたこと、体験プログラム・ガイドツアー等の参加、消費金額、満足度、紹介意向 など	観光庁の推奨調査票に準拠した項目に基づき実施 (調査方法) 宿泊施設での配布・郵送回収 (調査対象) 宿泊客 (調査地点) 県内宿泊施設 (調査回数) 夏と冬の2季
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度を把握し、プロモーション等の具体的な誘客施策の参考とする。	Google Analytics(グーグルアナリティクス)により、月ごとのアクセス数(セッション数、ユーザー数、ページ数)を分析

#### 4. 戦略

##### (1) 地域における観光を取り巻く背景

香川県の人口は、平成11年の103万人をピークに減少に転じ、令和元年10月1日現在の人口は95万人となっている。また、県人口に占める65歳以上の割合は31.8%と過去最高を更新するなど、少子高齢化が進んでいる。こうした地域の課題に対し、観光地域づくり法人(DMO)を中心として既存の観光資源を活用した観光地域づくりを行うことにより、交流人口を増加させ、地域経済の活性化を図ることとしている。

##### (2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<b>強み (Strengths)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸内海など美しい自然</li> <li>・狭い県土に集積するアート</li> <li>・伝統に育まれた和の文化</li> <li>・“瀬戸芸”ブランド</li> <li>・高速道路網の充実</li> <li>・国際定期航空路線の充実</li> <li>・まち歩きプログラムの実績</li> </ul>	<b>弱み (Weaknesses)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うどんのイメージが強すぎる</li> <li>・県下の各地域が相互に連携する基盤が弱い</li> <li>・2次交通網が十分とはいえない</li> <li>・外国人観光客の受入環境が十分とはいえない。</li> </ul>
外部環境	<b>機会 (Opportunity)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内需回復による旅行需要の増大</li> <li>・円安等による外国人観光客の増加</li> <li>・台風など自然災害の少なさ</li> </ul>	<b>脅威 (Threat)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大による移動の自粛等</li> <li>・価値観の多様化による観光と競合する選択肢の増加</li> <li>・観光誘客での地域間競争</li> <li>・県人口の減少・高齢化による営業継続性</li> </ul>

### (3) ターゲット

<p>○第1ターゲット層</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・首都圏を中心とした、アートに深い関心を持ち、SNSや口コミなどによる情報発信力が強い女性層</li></ul>
<p>○選定の理由</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・令和元年度香川県観光地点パラメータ調査によると、本県を訪れた観光客の居住地は、近畿(30.8%)、山陽(21.2%)、香川を除く四国(19.8%)、関東(12.8%)となっているものの、高松空港から羽田及び成田空港へは1日16便の国内定期路線が運航されており、2019年に開催された瀬戸内国際芸術祭でのアンケート調査では、関東地域から訪れた来場者は18.3%と、四国地域からに次いで多くなっていることから、ターゲットを、アートに深い関心を持つ首都圏を中心とした層とした。</li><li>・同パラメータ調査によると、本県を訪れた観光客の性別は、女性(53.4%)が男性(46.6%)を約1割上回っており、同アンケート調査では、来場者の約6割(64.9%)が女性という結果も出ている。また、女性は、楽しかったことや感動したことなどを自分以外の人に伝える傾向が、男性に比べると高いと言われており、民間会社の調査によると、スマートフォンで多く利用されているSNSアプリの利用率は、女性の方が高いという結果も出ていることから、ターゲットを、アートに深い関心を持ち、SNSや口コミなどによる情報発信力が高い女性層と設定した。</li></ul> <p>○取組方針</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・アートや島旅など本県の魅力や楽しみ方等をPRする映像等を制作し、Web配信や大都市圏での交通広告等を行うプロモーションを展開している。</li><li>・観光地や伝統的町並み、芸術・文化資源や産業(農林水産業や製造業など)といった地域資源を活かした個人旅行者向けの周遊型・体験型の旅行商品(滞在プログラム)を造成し、着地型商品を販売することとしている。</li></ul>
<p>○ターゲット層</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・高松空港からの国際定期路線が就航している、韓国、中国、台湾、香港を中心とした外国人観光客</li></ul>
<p>○選定の理由</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・観光庁宿泊旅行統計調査によると、令和元年に本県を訪れた外国人観光客の国・地域別の宿泊者数は、台湾(29%)、中国(27%)、香港(15%)、韓国(11%)で全体の8割以上(82%)を占めていることから、ターゲットを、韓国、中国、台湾、香港を中心とした外国人観光客に設定した。</li></ul> <p>○取組方針</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・現地でのキャンペーンの実施や旅行展示会への出展、旅行エージェントやマスコミの招聘、外国語パンフレットやノベルティグッズの作成・配布等を実施している。・現地旅行エージェントに対し、本県へのツアー造成・販促支援を行っている。</li></ul>

### (4) 観光地域づくりのコンセプト

<p>①コンセプト</p>	<p>「香川せとうちアート観光圏」のブランドコンセプト 瀬戸の恵み さぬきの旅 ～せと、人、アートで おもてなし～</p>
<p>②コンセプト の考え方</p>	<p>“世界の宝石”と讃えられた瀬戸内海の島と海が織りなす穏やかな風景。その瀬戸内海へ向かって緩やかに広がる讃岐平野には、ぽっこりとした“おむすび山”がまるで波間に浮かぶ小島のように点在し、のどやかな情景をさらに演出する。</p> <p>こうした風土に育まれながら、人々はこの地で和の文化を培ってきた。その伝統美は、江戸文化の粋を集めた栗林公園の大名庭園や、金刀比羅宮、善通寺に代表される寺社仏閣の建物や所蔵品に、今も垣間見ることができる。</p> <p>瀬戸内生まれの伝統文化は、これら歴史的文物だけでなく、漆器や盆栽、民芸品などの工芸技術や、郷土料理を支える和食の基本調味料“さしすせそ”の製法にも見られ、この地に住む人々の普段の暮らしの中にしっかりと溶け込んでいる。</p>

(別添) 様式 1

	<p>瀬戸内海を揺りかごとして色どり豊かに育まれてきた文化に、近年、アートという新たな色彩が加わった。</p> <p>島々を舞台に繰り広げられる現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」や、彼方に海を望む地で行われる「山なみ芸術祭」では、伝統文化との融合や作品が置かれる場所の特性が強く意識され、また、訪れる観光客、アーティストや地元の人たちとの交流も重要なテーマとなっている。</p> <p>瀬戸内海の恵みの中で培われた自然、文化、食などが豊かな讃岐での、ゆったりとした、心安らぐ旅を提供する。そして、この地で守り受け継がれてきた技と伝統美に、新たに加わった上質の現代アートなど、様々なアートとふれあい、瀬戸内に広がる明媚な景色や文化、食を五感で楽しみ、ここに暮らす人々とふれあう。そんな「せと、人、アート」にふれる旅を求めて来訪されたお客様を、ゆったりと流れる時間の中で、遍路文化で育まれてきた“おせったいの心”でおもてなしする。</p>
--	--

**5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション**

項目	概要
<p>戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。</p>	<p>観光圏戦略会議、ワーキンググループ</p> <p>観光圏戦略会議については、地域の関連事業者をメンバーとし、3か月に1回程度開催。 ワーキンググループについては、観光地域づくりマネージャーを中心に年間20回程度開催。</p>
<p>観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンド客が安心して宿泊施設を選択できるよう、宿泊施設の観光品質認証制度「SAKURA QUALITY」を、平成29年度から導入。</li> <li>・県的なおもてなし力の向上を図るため、本協会を含む県内約120団体等で構成する「観光香川おもてなし運動県民会議」を平成27年10月に設立。</li> </ul>
<p>観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多言語対応（英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語、タイ語）したWebサイトやFacebookを利用した一元的な情報発信を行うとともに、県出身の俳優・要潤氏や女優・木内晶子氏などを活用したプロモーションを実施している。</li> <li>・全国で唯一隣接する「香川せとうちアート観光圏」と「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」が連携し、情報発信や旅行者誘致などを行っている。</li> </ul>

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

## 6. KPI (実績・目標)

## (1) 必須KPI

指標項目		2018 (H30) 年度	2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度
●旅行消費額 (円)	目標	30,700	31,600	25,900 (28,100)	25,900 (28,400)	25,900 (28,700)	25,900 (29,000)
	実績	25,823	24,401	25,622 (56,555)	( )	( )	( )
●延べ宿泊者数 (万人)	目標	390 (44)	401 (51)	414 (63)	420 (68)	425 (72)	430 (77)
	実績	404 (54)	465 (69)	237 (7)	( )	( )	( )
●来訪者満足度 (%)	目標	14.0	15.0	20.0 (22.3)	21.0 (23.8)	22.0 (24.8)	23.0 (25.8)
	実績	16.9	15.3	24.0 (21.9)	( )	( )	( )
●リピーター率 (%)	目標	82.0	83.0	77.0 (19.8)	77.0 (20.8)	77.0 (21.8)	77.0 (22.8)
	実績	74.7	68.6	76.3 (4.0)	( )	( )	( )

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

## 目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

## 【検討の経緯】

目標数値については、観光圏整備法に基づき策定した観光圏整備計画における目標数値と同一に設定。なお、同計画については、香川県の第2次かがわ創生総合戦略と整合性を取りながら設定。

## 【設定にあたっての考え方】

## ●旅行消費額

- ・日本人は、過去5年間の実績が減少傾向にあることから、過去5年間の平均額(25,900円)を下回ることはないよう目標値(毎年度同額)を設定。
- ・外国人は、過去4年間の実績が不安定なため、平均額(27,548円)を基準値とし、毎年1%増加するよう設定。

## ●延べ宿泊者数

- ・日本人は、H30実績(350万人)を基準値とし、過去4年間の対前年増減率平均0.2%を毎年増加させるよう設定。
- ・外国人は、国の観光ビジョンにおける目標である「R12にH27実績の5倍超の1,100千人」に合わせ、H27実績(21万人)を基準値として、R12まで毎年同率で増加するよう設定。

## ●来訪者満足度

- ・日本人は、過去5年間の実績平均(18.0%)を基準値とし、毎年1ポイント増加するよう設定。
- ・外国人は、過去5年間の実績平均(20.3%)を基準値とし、毎年1ポイント程度増加するよう設定。

## ●リピーター率

- ・日本人は、過去5年間の実績が減少傾向にあることから、過去5年間の平均率(77.0%)を下回ることはないよう目標値(毎年度同率)を設定。
- ・外国人は、過去5年間の平均実績(17.8%)を基準値とし、毎年1ポイント増加するよう設定。

(別添) 様式 1

(2) その他の目標

指標項目		2018 (H30) 年度	2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度
●圏域外観光客数 (万人)	目標	954	966	956	964	971	978
	実績	942	969	618			
●平均宿泊日数 (日)	目標	1.40	1.44	1.21	1.22	1.23	1.24
	実績	1.24	1.21	1.36			
●まち歩き参加者数 (人)	目標	9,700	10,000	6,300	6,300	6,300	6,300
	実績	5,925	12,038	2,507			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

目標数値については、観光圏整備法に基づき策定した観光圏整備計画における目標数値と同一に設定。

【設定にあたっての考え方】

●圏域外観光客数

・平成30年実績(906万人)を基準値とし、過去3年間の対前年増減率平均(0.77%)を毎年増加するよう設定。

●平均宿泊日数

・過去5年間の平均日数(1.19日)を基準値とし、毎年1%増加するよう設定。

●まち歩き参加者数

・過去5年間の実績をみると減少傾向にあることから、直近2か年の平均参加者数(6,300人)を基準値とし、下回ることのないよう目標値(毎年同数)を設定。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後3年間について、計画年度毎に(1)収入、(2)支出を記入すること。

※現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

(1) 収入

年(年度)	総収入(円)	内訳
2018(H30) 年度	1,015,421,973円	【受取会費】 8,510,000円 【事業収益】 1,197,682円 【手数料収益】 2,481円 【使用料収益】 1,242,889円 【受託収益】 47,268,615円 【受取補助金等】 931,662,010円 【受取負担金】 23,731,017円 【雑収益】 1,807,279円

## (別添) 様式 1

2019 (R 1) 年度	986,674,803 円	【受取会費】 8,700,000 円 【事業収益】 836,000 円 【手数料収益】 2,126 円 【使用料収益】 1,364,900 円 【受託収益】 47,273,776 円 【受取補助金等】 908,924,460 円 【受取負担金】 19,035,734 円 【雑収益】 537,807 円
2020 (R 2) 年度	640,683,181 円	【受取会費】 6,895,000 円 【事業収益】 623,500 円 【手数料収益】 2,607 円 【使用料収益】 359,620 円 【受託収益】 50,099,320 円 【受取補助金等】 566,617,179 円 【受取負担金】 15,372,892 円 【雑収益】 713,063 円
2021 (R 3) 年度	847,173,000 円	【受取会費】 6,844,000 円 【事業収益】 1,760,000 円 【手数料収益】 206,000 円 【使用料収益】 300,000 円 【受託収益】 51,166,000 円 【受取補助金等】 771,077,000 円 【受取負担金】 14,450,000 円 【雑収益】 1,370,000 円
2022 (R 4) 年度	847,173,000 円	【受取会費】 6,844,000 円 【事業収益】 1,760,000 円 【手数料収益】 206,000 円 【使用料収益】 300,000 円 【受託収益】 51,166,000 円 【受取補助金等】 771,077,000 円 【受取負担金】 14,450,000 円 【雑収益】 1,370,000 円
2023 (R 5) 年度	847,173,000 円	【受取会費】 6,844,000 円 【事業収益】 1,760,000 円 【手数料収益】 206,000 円 【使用料収益】 300,000 円 【受託収益】 51,166,000 円 【受取補助金等】 771,077,000 円 【受取負担金】 14,450,000 円 【雑収益】 1,370,000 円

## (2) 支出

年(年度)	総支出	内訳
2018 (H30) 年度	1,012,583,216 円	【観光情報発信事業】 86,121,567 円 【観光客誘致事業】 789,939,034 円 【受入態勢整備事業】 116,685,759 円 【収益事業旅行業】 524,561 円 【管理費】 19,312,295 円

(別添) 様式 1

2019 (R1) 年度	983,800,975 円	【観光情報発信事業】 83,464,445 円 【観光客誘致事業】 765,545,213 円 【受入態勢整備事業】 117,434,547 円 【収益事業旅行業】 112,009 円 【管理費】 17,244,761 円
2020 (R2) 年度	669,026,948 円	【観光情報発信事業】 72,176,603 円 【観光客誘致事業】 443,122,589 円 【受入態勢整備事業】 135,300,763 円 【収益事業旅行業】 119,692 円 【管理費】 18,307,301 円
2021 (R3) 年度	862,261,000 円	【公益目的事業】 857,336,000 円 【収益事業】 1,006,000 円 【その他】 3,919,000 円
2022 (R4) 年度	862,261,000 円	【公益目的事業】 857,336,000 円 【収益事業】 1,006,000 円 【その他】 3,919,000 円
2022 (R5) 年度	862,261,000 円	【公益目的事業】 857,336,000 円 【収益事業】 1,006,000 円 【その他】 3,919,000 円

**(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針**

- ・ 会員数の増による自主財源の確保。
- ・ 県等からの補助金・受託事業の増による基盤の確立。
- ・ 収益事業として、平成 30 年度から着地型旅行商品の造成・販売等を実施。

**8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見**

香川県は、地域連携DMOである公益社団法人香川県観光協会と連携して魅力ある観光地づくりに取り組めます。

**9. マーケティング・マネジメント対象区域が他の地域連携DMOや地域DMOと重複する場合の役割分担について (※重複しない場合は記載不要)**

重複なし

**10. 記入担当者連絡先**

担当者氏名	中井 辰一郎
担当部署名 (役職)	香川県観光協会 (課長代理)
郵便番号	760-8570
所在地	香川県高松市番町四丁目1番10号
電話番号 (直通)	087-832-3360

(別添) 様式 1

F A X 番号	087-861-4151
E - m a i l	sc1304@pref.kagawa.lg.jp

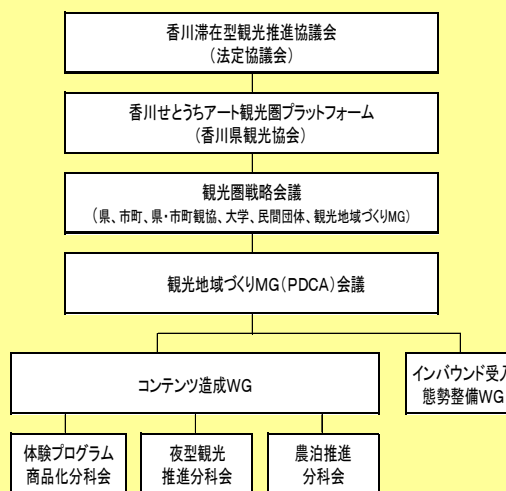
1 1 . 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	香川県
担当者氏名	塩崎 正明
担当部署名 (役職)	交流推進部観光振興課 (課長補佐)
郵便番号	760-8570
所在地	香川県高松市番町四丁目 1 番 1 0 号
電話番号 (直通)	087-832-3360
F A X 番号	087-835-5210
E - m a i l	hx7502@pref.kagawa.lg.jp



【区域】香川県全域(8市9町)  
 【設立日】昭和45年9月21日(H25.4.1 公益社団法人移行)  
 【登録日】平成29年11月28日  
 【代表者】会長 三矢 昌洋  
 【マーケティング責任者(CMO)】専務理事 国分 伸二  
 【財務責任者(CFO)】事務局長 土居 義昌  
 【職員数】9人(専従役員、専従職員)

**実施体制(令和2年度)**



**マーケティング・マネジメントする区域**



**【連携する主な事業者】**

各市町観光協会等、わがかがわ観光推進協議会、てくてくさぬき推進協議会、香川県ホテル旅館生活衛生同業組合、さぬき瀬戸塾、(株)百十四銀行、(一社)香川県婦人団体連絡協議会、(一社)かがわ県産品振興機構、(一社)全国旅行業協会香川県支部、(一社)日本旅行業協会中国四国支部香川地区委員会、四国旅客鉄道(株)、高松琴平電気鉄道(株)、香川県旅客船協会 など

**合意形成の仕組み**

【該当する登録要件】①、②

【概要】  
 ①県下の観光関係団体等の長が当協会の役員に就任している。  
 ②「香川せとうちアート観光圏」のプラットフォームとしての役割を担っており、県や市町、市町観光協会、関係団体をメンバーとする観光圏戦略会議やワーキンググループを設置している。

**法人のこれまでの主な活動実績**

- 【情報発信・プロモーション】
  - ・うどん県アート県ブランドプロモーション事業
- 【観光資源の磨き上げ】
  - ・周遊型・体験型コンテンツ造成事業
  - ・夜型観光推進事業
- 【受入環境の整備】
  - ・外国人観光客受入環境整備事業
  - ・観光香川おもてなし運動推進事業
  - ・観光ガイド育成事業

**インバウンド戦略**

【主なターゲット】  
 中国、台湾、香港、韓国、タイ、欧米豪

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】  
 海外への情報発信の強化による認知度向上や観光資源の魅力向上、受入環境整備に取り組むほか、広域連携DMOと協同してプロモーション活動を行う。  
 ○観光需要の創出事業  
 ○外国人旅行者の利便性の向上事業  
 ○他エリアとの連携による誘客促進事業

**観光関連事業者と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション**

県や市町、市町観光協会、宿泊施設、大学、交通機関、NPO法人、文化や食、農業関係団体をメンバーとする観光圏戦略会議やワーキンググループを定期的を開催することにより、戦略や各事業の進捗状況等について共有を図っている。

**KPI(実績・目標)** ※( )内は訪日外国人旅行者に関する数値

項目		2018 (H30) 年度	2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度
旅行消費額(円)	目標	30,700	31,600	25,900 (28,100)	25,900 (28,400)	25,900 (28,700)	25,900 (29,000)
	実績	25,823	24,401	25,622 (56,555)	( )	( )	( )
延べ宿泊者数(万人)	目標	390 (43)	401 (51)	414 (63)	420 (68)	425 (72)	430 (77)
	実績	404 (54)	465 (77)	237 (7)	( )	( )	( )
来訪者満足度(%)	目標	14.0	15.0	20.0 (22.3)	21.0 (23.8)	22.0 (24.8)	23.0 (25.8)
	実績	16.9	15.3	24.0 (21.9)	( )	( )	( )
リピーター率(%)	目標	82.0	83.0	77.0 (19.8)	77.0 (20.8)	77.0 (21.8)	77.0 (22.8)
	実績	74.7	68.6	76.3 (4.0)	( )	( )	( )

**活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し**

【主な収入】受取補助金等 595百万円(R2年度)  
 【総支出】669百万円(一般管理費18百万円、事業費650百万円)  
 【自立的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針】  
 会員数の拡大、補助金・受託事業の増加、旅行商品の販売強化